

2015年3月17日

視覚障がいパラリンピアン有志のみなさまより、「+1 LANE PROJECT」の都知事宛て提言書に対し、下記のとおり賛同のメッセージをいただきました。

記

木村敬一

水泳 北京パラリンピック出場、ロンドンパラリンピック旗手・銀メダリスト・銅メダリスト

「私は生まれつきの全盲で、普段は基本的に一人で白杖を持って外出しております。私の住む地域（世田谷区）は中高生が多いこともあり、自転車の往来が非常に頻繁です。私自身が自転車と接触することもちろんありますが、白杖が自転車と接触し自転車を倒してしまったり、白杖が折れてしまうことも少なくありません。

自転車と歩行者を明確に分けてもらえれば、私たち視覚障害者だけでなく、自転車の利用者にとっても安全であると思います。」

高橋秀克

柔道 ロンドンパラリンピック出場

「音もせず歩道を走行する自転車には視覚障害者である私も何度も何度も驚かされています。今まで事故にあわなかった事が不思議なくらいです。ぜひ首都である東京から始め全国に広めていって下さい。頑張ってください。応援しています。」

初瀬勇輔

柔道 北京パラリンピック出場

「私たち視覚障害者にとって自転車は歩行の一番の難敵です。専用レーンができれば自転車ユーザーだけでなく歩行者も含めたすべての人に快適な都市が実現できると思います。」

半谷静香

柔道 ロンドンパラリンピック出場

「視覚障害者の立場からメッセージを送ります。外出中、困ることは沢山ありますが、自転車が原因のことは数多いです。歩道に堂々と置かれた自転車は勿論、ものすごいスピードですれ違う暴走自転車に驚くことや、走行中の自転車に白杖が巻き込まれた事もあります。狭い歩道で道幅を確保できずに接触しそうになったことも！

自転車レーンが確保されれば、歩道を歩く視覚障害者も、またすれ違う自転車ユーザーも安心して自分の進路を確保出来ると思います。

また、都心からそのような取り組みが始まれば、私が住む福島にもいつか、歩道を歩行者が安心して歩けるようになるはずです。

そのような日が来れば良いなと思っています。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、快適に過ごせる日本、まちを目指して欲しいです。」

廣瀬誠

柔道 アテネパラリンピック銀メダリスト、北京・ロンドンパラリンピック出場

「疾走してくる自転車はとっさに対応できない我々視覚障害者にとって脅威です。この取り組みは歩行者も自転車利用者も互いに住みやすい社会実現に役立つと思います。よって、私はこの提言に賛同します。」

松本義和

柔道 シドニーパラリンピック銅メダリスト、アテネパラリンピック旗手

「私は視覚に障害があります。これまで歩道を通行する自転車と接触し、白杖が折れたり怪我をしたりなど何度も危険な思いをしてきました。

このような自転車走行レーンができることにより、私たち視覚障害者が安心して外出できる環境を是非とも実現してほしいものです。」

(50音順、敬称略)

以上

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会

<+1 LANE PROJECTとは>

自転車活用推進研究会が開設している、東京都心全域と2020年東京オリンピックパラリンピック施設をつなぐ自転車レーン網整備を提唱するオンラインキャンペーンです。

賛同を示す「いいね」ボタンが2015年3月時点で30,000回以上クリックされています。

近日中（日程調整中）に都庁に対して都知事宛て提言書を提出予定です。

<http://plusonelane.tokyo>